行田らしい健康づくり



大屋　彰（公明党）

同じ足袋の産地として、徳島県鳴門市では、足袋と健康・スポーツを組み合わせた「ナルトレタビ」という取組があり、足袋の地域の産業としてだけでなく、新しい分野にも活用している取組がある。

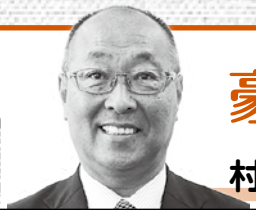
問　本市にも、足袋という大きな地域資源があり、過去に「足袋で健康に」という取組が行われている。過去の取組や他自治体の事例を参考にし、行田らしい健康づくりを今後、検討する考えはあるか。

答　市民の皆様に関心をもっていただくこと、主体的かつ継続的な取組につながっていくことが大切と考えている。参考とさせていただき、引き続き事業の充実に努める。

〔その他の主な質問〕
○ムクドリによる生活環境への影響について



豪雨災害に備えて －指定避難所にエアコンを－



村田清治（令和研究会）

問　市内の指定避難所の中で最大規模となる行田市総合体育館のメイン、サブアリーナの空調設備が本年6月から稼働開始となり、多くの市民が安堵したものと思う。それでも、地震や豪雨、特に、この地域で警戒しなければならないのは豪雨災害だと実感しているが、指定避難所（小中学校体育館）にエアコン設備がないことをどう捉えているか。

答　近年、自然災害が多発していることや地球温暖化の影響により年々気温が上昇しているため、災害時における避難者の熱中症などの健康被害予防の観点からエアコン設備の設置は喫緊の課題であると認識している。学校施設における災害時の運用として施設管理者と連携の上、教育活動に影響のない範囲で、校舎内の教室を避難スペースとして活用する。

〔その他の主な質問〕
○さきたまに続く新たな特産品となり得る農産物は何か
○ふるさと納税額を増額する有効な方策は何か

その「当たり前」今も必要ですか？



新　諒平（令和研究会）

【教育】単発から習慣へ

問　新聞を活用した学習を、全市で習慣化しては？

答　市内20校中16校で実施しており、情報を読み解く力や思考力、判断力、表現力を育む重要な取組と認識。朝学習等での習慣的な取組を検討するとの答弁がありました。

現在は学校ごとに月1回から週1回程度など取組に差があります。学力の高い秋田県横手市などの取組を参考に、単発ではなく全市で毎日の習慣とすることを求めました。

【ごみ】地域任せを見直す

自治会未加入者も利用する一方、清掃や管理は地域住民が担い、負担の不均衡を市も課題として認識しています。

問　24時間利用できる市営ごみステーションを、まずは1か所から実証しては？

答　現在、市民が通常利用できる市営集積所は0か所。全国の事例も把握しており、この方式も「検討の一つ」との答弁がありました。

〔その他の主な質問〕
○広報戦略